

<地域別懇談会 意見一覧>

《凡 例》

黒字： 9月12日(日)の御意見
赤字： 9月18日(土)の御意見
青字： 9月24日(金)の御意見
紫字： 9月29日(水)の御意見

テーマ① 水とみどりを大切にし、生かすまちづくり

■農地をできるだけ減らさない ⇒ 農地を残すために何ができるかを考える	
農業をする人を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・ 援農ボランティアを活用する(PRL、市民参加を増やす) ・ 援農ボランティアから、就農希望者に移る人も? ・ 畑と住居をあっせんするなど、市外から新規就農者を呼び込む(仕組みをつくる) ・ 就農センターを活用し、農業への就職を斡旋する ・ 雇用のマッチングを行う(農地も商店も同じ) ・ 現在やっている人が後継者につなぐまでのタイムラグを埋める担い手の確保 ・ 近年、新規就農者が少し出てきたので、彼らを気持ちの面で応援する。
地域循環型農業をすすめる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみの堆肥化→市内農家の利用→市内で販売という循環をつくる
農地の生産性をあげる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地がバラバラにちらばっていて生産性が低い ・ 相続時に農地の集約をすすめる ← 市が斡旋する ・ 欧米の産物の種を導入するなど、収穫物の変更を促す ←HP等で情報を提供する
農産物の付加価値を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物を評価し、「都市農業」「東京農業」をブランド化する ・ 地場農産物で商品をつくり、付加価値を高める。CASで鮮度保存を

地産地消をすすめる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地産地消で経営的に成り立つようになるとよい ・ 地産地消で、地場農産物が常に市民の目にふれるようにする ・ 地場の野菜を活かし切る。市民がそれに協力することで、農家も心強く思える ・ 直売所を集約する。農家の直売のネットワーク化を図る ・ 道の駅をつくる（お金をかけない簡単な施設⇒バラックでも） ・ 六仙公園で朝市を ・ 東久留米産の農産物を評価し、おいしさをPRする ・ 東久留米市農産物の安全性をアピールする(農薬使用への誤解がある) ・ 東久留米産の農産物のパンフレットを積極的に配る <p>給食に地場農産物を使う。生徒と保護者にアピール ⇒食材をそろえるのが大変なので、野菜納入コーディネーターなどの仕組みをつくる。 仕組みづくりが大切！努力だけでは・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内スーパーに地場産売り場を設ける(すでに実績あり) ・ 市内の八百屋や商店と農家が提携して、地場農産物売る ⇒商店街振興にもなる ・ 農家が共同で、農産物の引き売り(出張販売)をする ・ 市民まつり⇒農業祭と商工に分離し、祭でのPRを強化する ・ 子どもの地産地消にもつながる
市民農園として活用する	<p>市民農園としての活用を促す ⇒ 現在は仲介が不十分。 ⇒ やりたい人ができるようにしくみを改善する</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 相続が発生しても使いつづけられる、代わりの畑をあつせんするなど、農地の市民利用が継続できる仕組みをつくる ⇒ 畑の貸し手にメリットがある方法にする
体験農園(指導付農園)として活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作のレクチャー付きの市民農園をつくる ・ サポーター農家が指導する指導者つき農園をつくる(例:エコスクール練馬) ・ 通勤者や会社ができる駅近農園をつくる ・ 農業をやりたい高齢者の生きがい農園をつくる ・ 農地・農家を活用して、子どもの農業体験、食育をすすめる
農地を民間に貸し出す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が借り受けて、民間に貸し出してはどうか
多面的な価値をアピールし、活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害避難のスペースとしてのメリットも訴える ・ 防災拠点(トイレや倉庫を設置)や学校農園など、複合的な利用目的で農地を取得する(法人運営もありうる)
農地を市民の財産と考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地を、まちの、みんなの財産と考えて、市民が協力する

その他農地関連

- ・ 生産緑地の部分解除を行ってほしい
- ・ 現況が駐車場などでも、地目が「農地」のものは、農地に戻すべき
- ・ 畑は一度舗装(覆って)してしまうと、元に戻れない。農地として使い続けるように努めるべき
- ・ 生産緑地の減少だけでなく、宅地の増加に関するデータも示してもらいたい

■農地をできるだけ減らさない ⇒ 農家・農業の実情を踏まえた現実的な対応を

<p>農家の気持ち・実情を聴く必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶私の代でつぶしたら…というプライドで続けているのが実情 ▶兼業がほとんど。農業の赤字を不動産収入で埋めているのが実際 ▶農地が散在していて作業が大変。 	
<p>相続税(国税)が課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物納せざるを得ない場合もある ・先祖代々の土地は、貸すのも嫌だという農家もある ・国税で難しいが、市として相続税の緩和策をつくる ・相続税を考えると、母屋を残すために林や畑を処分するのは、仕方ないのでは？(個人の財産) ・相続時にも持ち続けられるように、市民も支援できる方法を考える
<p>農地を持つ人と守りたい人、両者の意見を聴く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の所有者と、農地や水を守りたい人、両者の意見を聴くしくみをつくる
<p>支援だけでなく、ケアまでしないと</p>	<p>相続税や収益性からみて、農家を「市民で支援する」だけじゃ足りない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的に成り立つ農業とするためのケアまで行うなど、農家の生き残る道まで考えないと、口先の支援や市民の「手」だけでは、農地は残せない <p>⇒JAのノウハウ活用や市の支援が必要</p>
<p>市民が農地や屋敷林の保全に金銭面で協力する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民でお金を出し合って、基金を設立する ・志のある人でナショナルトラスト ・市民が農地の一坪地主になる

■開発をコントロールする ⇒ 開発も必要だが、ルールを決め、それに沿った開発を。	
緑を残した開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税制や農家のことを考えると、開発がおこるのは当然 ・ 宅地分譲は若い人が来るためにも必要
生活道路整備優先で	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活道路整備を優先し、開発を誘発する幹線道路整備は後回しに ・ 道路整備が開発を誘導する側面があることを踏まえて、整備のあり方を検討すべき ・ 安心して歩ける身近な生活道路の整備を優先すべき
近隣市との開発調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柳窪の水枯れには、隣接市の開発も影響しているのではないかと。調整できないか
条例をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールを定めて、道路の幅や公園・緑の確保、インフラの整備を業者に求める ・ 開発地の一部を公園にさせる ・ 学園町は、ミニ開発が進んでいる。土地の細分化の防止が必要 (100坪以上⇒3~5分割・切り売り) ・ 高さの制限を定める ・ 墓地の規制・墓地紛争を防ぐ ・ 東久留米独自の条例で、小規模開発までコントロールする ・ まちのビジョンをしっかり持ち、「他ではOKでも、我がまちではダメ」という姿勢でコントロールする
市民にルールを守ってもらう 緑化に努めてもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が、建ぺい率(40%)以下を守らせる。(緑は残るし、地下水も涵養) ⇒ 建築主事をふやす ・ 小規模住宅に駐車スペースを設けると、土は覆われて緑を植える余裕はない(温暖化にも影響) ⇒ 植樹や生垣など、個人住宅レベルもみどりを確保すべき 少しづつでも ・ 団地はみどりが豊富だが、戸建て住宅はみどりが少ない。
土地利用のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅近: 開発、駅遠: 緑を残す、といったメリハリのある開発を促す 加えて、駅遠で農地を残せるよう、税の緩和や市民の支援が必要
その他土地利用関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑化率の%に応じて、交付税が増えるような、緑化率ポイント制度の導入を働きかけては？

■農地以外の緑を残す・創る ⇒ 畑だけがみどりじゃない・畑は緑地ではない

残す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑の密度が増えることは、命の密度が増えること。治癒作用(セラピー作用)も期待できる ・ 廃校・廃園の際は、切り売りせずに、みどりを残すようにする ・ 団地の建替えの際は、いまのみどりを残す ・ 団地はみどりが豊富だが、戸建て住宅はみどりが少ない。 ・ 公共施設用地は売却せずに、緑に囲まれた中層建築物を建ててみどりをまもる。 (売ってしまったら、みどりが少なくなる懸念がある) ・ 中層建築物は、低層階に店＋公共公益施設、その上に住宅を入れ、賃貸料が市に入るようにす ・ 東京都の公園も市民の財産として生かす。雑草も大切にす <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋敷林の保全には、管理の「手」と、売られないための「金」両面の支援が必要 <p>管理の「手」の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例)①NPOに対する行政支援、②ボランティアを示すワッペンの交付、 ③地権者の受け入れ意識づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 維持資金の方策:①基金やみどりの税金、②通行税・利用税、③一坪地主・一本地主 ・ 「売りたい」人と、「買いたい」市民・企業をつなぐ。土地開発基金の運用？ ・ 滝山団地2・3丁目は公園団地といわれ、計画的に公園が配置されている。現状を保持してほしい。
生かす	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋敷林や寺社でコンサートを行うなど、場として使うことで価値をアピールし、自然資源と芸術の共生を図るとよい <p>屋敷林や民家を生かしては？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考事例:「和のいえ」(五日市街道沿い・西東京市)民家を活用して、 デイサービスや学童保育を実施
まもる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街路樹だってみどり ・ 柳窪が相続で危機的な状況にある。重点的な対応が必要 ・ 景観条例をつくって、柳窪の景観や屋敷林、遺跡や文化財を含めて残す ・ 屋敷林の保全に関する補助制度のPRが必要 ・ お寺の緑もまもる

ふやす	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人が自宅の庭のみどりを維持管理する ・ 個人の庭でオープンガーデンをする。マップをつくって回る(流山市、西東京市などが取り組んでいる) ・ 環境軸の形成: 街路樹に郷土種(ケヤキ、コナラ、クヌギ)を使う 暗渠化された川を開放する(出水川など) ・ まち全体を公園にする ・ 滝山団地の公園には、花の名前がつけられている。これら名前にちなんだ花を植えて、特色を出しては? ・ 商店街整備で木が切られてしまった。人が歩く商店街に、みどり・木陰は重要 ・ 自動車の利用を抑えて車を減らし、駐車場をやめて緑化する ・ 白山公園の池を復活させてほしい
みどりを守ることと、迷惑感・モラルのせめぎ合い	<ul style="list-style-type: none"> ・ みどりを守ることと、市民の生活モラルのせめぎ合い (東久留米団地では) 木が育つと、「切れ」と言われる うっそうとしていると、防犯面でこわい。でも、男の子には魅力的な空間 下草刈りの音がうるさいと苦情がある (川辺の散歩道では) 早朝や深夜に大声を出す ・ 団地脇のうっそうとした緑は、暗くてこわい面も ←男の子はジャングルが好き
市民の関心を高める・意識改革を促す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水とみどりに関する関心・意識は、着実に高まっている。水とみどりを守ろうという人が増えた みどりは確かに減少しているが、20年前はそういう声もなかった かつては、川辺でゴミ清掃や調査をしていると、不審者扱い。川辺もゴミの山だったが、今は、温かい目で見守ってもらえる。 ・ お金をかけずに、市民全体の意識づけで緑をまもる ・ 学校・幼稚園から、水辺で遊びなど、水やみどりに親しむ機会をふやす ・ 自治会ボランティアで、自分の家の前、店の前の清掃に、2回、3回と参加することで、回を重ねるごとに「まち全体」に対する意識が高まった。きっかけが必要 ・ ベランダガーデニングを一年やっただけで、まち中のみどりに関する意識が高まり、駅前の花植え活動にも関心が向くようになった ・ 参加することで、大切にしたい気持ちが高まり、守ることの大変さを知り、意識改革が進む ・ 公園の花植えや管理の指導者がほしい ・ ガーデニングにちょっと詳しい市民が、市民に教えてあげることで、みどりに関する関心も広がるのでは?(土の処分対策も重要) ・ 学校の遠足で、東久留米市内の資源をまわり、小さいころから知るようになる

<p>市民も管理にかかわるそれを支援する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が水辺の清掃に参加する ・ 維持管理への市民ボランティア参加(公園ボランティア、花植えボランティア) ・ 学校の総合学習・ボランティア活動で、水辺やみどりの清掃体験など、いろいろ体験をする ・ 学校の授業で参加のきっかけづくり <p style="color: red;">小さいころから、東久留米の水とみどりの魅力を伝え、感じさせて、子どもが戻ってくるまちにする(幼稚園・保育園の頃から、水辺に親しむ。河童のクウや河童のおみやげ(ビー玉)。遠野市も参考に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東久留米の魅力を教育することで、大きくなって、みどりを考えるきっかけをつくる先生は、水やみどりにくわしい「市民」がふさわしい ・ 水とみどりに関する特徴ある教育を、継続して、市全体で、一貫性をもって行う(例)小四の副読本にするなど <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑地保全地域で活動するNPOが、水辺も管理するとよい ・ 無償で人のためにやりたい人(高齢者など)を集め、つなぐ、サポート組織をつくる⇒ ボランティアの組織化 ・ まちの清掃にしる、ガーデニングの拡大(市民同士教えあう)にしる、市一斉のバックアップ体制が必要
<p>まずは、水とみどりなどがあることを知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水とみどりの都市宣言の前提として、市民みんなが知ることが重要。 ・ 勤め人は、市の水やみどりについて知らない。まずはPR ・ 市民主体で資源や魅力を洗い出し、意識を高める ・ 「水とみどりの豊かさ」「なぜ守るのか」「どうやって守るのか」を、市民みんなに知らせる(PR)
<p>■市民が使える・係われるみどり・水辺を</p>	
<p>緑があっても、使えない、さわれない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護施設のそばの緑地(前沢の森)が、フェンスで囲われていて散歩などに使えない都の緑地は囲われて使えない。 ・ ⇒残すだけでなく、活用する。遊歩道などの工夫も必要か？

<p>河川の水質改善</p> <p>川と住民(人)の距離を近づける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落合川の水質が気になる ・ 安全面の課題はあろうが、川に入れる場所をつくってほしい(特に黒目川) ・ 市民の声で多自然型工法が取り入れられた経緯を踏まえ、川と住民の距離を近づける努力を ・ コンクリート張りにしないでほしい。壁を低くしてほしい ・ 川辺の整備は、自然が感じられる形・散策にふさわしい形で ・ 落合川は多自然化？直線化？ ・ <u>川沿いの遊歩道を延長し、ネットワーク化してはどうか</u> ・ 川辺にトイレ、ベンチなどがあるとよい <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川辺の遊歩道には木陰がほしい ・ 釣堀としての活用も考えられる ・ 川辺に大人が楽しめる、おしゃれな飲むところ、食べるところがあるとよい(目黒川とまではいなくてもいい) ・ 川辺の飲食店の上がりの一部を、みどりの基金に充当しては？ ・ 湧水コーヒーをもっとやったら？名物にしたら？ ・ 大人だけでなく、子どもも楽しめる店も川辺にあるとよい ・ <u>在宅障害者の働き口として、川辺カフェをやってはどうか？</u> ・ 落合川河川敷の都営住宅は撤去すべき
<p>川辺の整備にかかわりたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹などにより、市民参加で木陰をつくりたい ・ ハードの河川整備は行政、花木管理や川辺の庭造りは市民、という形で協働したい
<p>管理上の制約に対応を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散歩道周辺の庭造りや管理にかかわりたい。しかし、都の河川管理の関係で難しい。どうすればいいか？ ・ 管理者は、一律にばっさりと草刈をするため、川辺のひるがおなど、日本の情緒まで失われる。地域で管理させてもらえないか？ ・ 河川管理には、河畔林保全や水循環の視点も入れてほしい。また、外来種の侵入を防いでほしい ・ 管理者により、使える・さわれる範囲が違うので、管理者がわかるようにしてほしい ・ <u>かかわりたい市民と、河川管理者である東京都との仲立ちを、市にやってもらいたい</u> ※緑地保全地域なども、同様 ・ ボランティアや高齢者の組織化、農地所有者や守りたい人の交流の場、河川や緑地の市民管理の、枠組みは行政につくってもらいたい。
<p>川辺の安全確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豪雨の浸水マップをつくってほしい
<p>市民の協力体制も重要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汚水を河川に流さないなど、基本的なところを抑える 原告をホトケドジョウに闘う市民もいる ・ <u>家庭雑排水を川に流さないなど、市民モラルも重要。市民自治</u> ・ <u>川辺にゴミを捨てない</u> ・ 雨水浸透ますを積極的に導入する

■水とみどり、安全・安心だけで住みやすいか？いいのか？

<p>水とみどりだけでは足りない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働く人の減少、限界団地が出現する懸念など、財政は危機的状況。みどりだけでは、まちは潤わない ・ 人口減少にまかせるのではなく、魅力づくりで人口をひきつける ⇒若者が流出しない・戻る・子育て層が来る(開発で呼び込む) ・ 少子高齢化の中、地道に市民の地元への愛着を形成することが重要 ・ 産業や大学を呼ぶ、スポンサーシップを募集するなど、財政なども考えた大局的な判断が必要 ・ 若者も集まる興奮と感動、文化や知性のあるまちを
<p>六仙公園の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 六仙公園を1日楽しめるような文化と市民の憩いの場所に 高年齢施設や障害者施設があり、誰もが行きやすい福祉特区に 土に触れられるやさしい教育、農業体験、花植えボランティアの場に ⇒農業後継者の発掘に 八小の生徒の風景画を展示するなどの文化施設を 土器や竪穴住居の体験施設を 防災拠点・広域避難場所としての活用を(小平霊園では遠い)
<p>文化施設・交流施設を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由学園、柳窪の屋敷の公開など、文化と知性が感じられる資源を活用する ・ 美術館などの文化施設をあえて新設すべき。 ⇒ マルシェ・交流機能を併設させ、交流を促す。 ・ 未来志向の美術館、例えば自然エネルギー美術館など、独自の文化施設を、お金をかけてでもつくるべき ・ 美大や音大など、文化が感じられ、屋間に人をよべる施設を誘致する ・ 新たな施設とつくってもやる←→ハコモノはつくるべきではない。
<p>東久留米は魅力的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「多摩ら・び」の特集をみて、中央区、世田谷区、練馬区の友人が来たがった ・ 東久留米市は、こじんまりしていて、水とみどりのバランスがとれていて「よい」。川に入れるというのも魅力的 ・ 東久留米の魅力を観光に活かせないか？
<p>既存地域資源の活用を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園町の屋敷(保存指定か?)やアメリカンスクール、グレゴリオのパイプオルガンなども資源。これらの存在をまち中にひき込む方策を ・ 地域資源で来てもらう、リピーターを増やす ⇒ 消費につなげる 自然に加えて、神社や七福神 ・ 富士山に見える景観もポイント ・ 柳窪の景観、氷川神社

<p>水とみどりを生かしたまちおこし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川辺でアートイベントを： 美大と協働し、小学生の図工なども活用して、川辺でビエンナーレ ・ アートイベントに、商店街(黒目川近くの、かるがも商店街等々)やホームセンター(材料供給)などが絡んで、経済波及効果を生む。 ・ 「人が入って遊べる」水とみどりというアピールも ・ 湧水、黒目川、落合川、水浴び ・ 第2、第3のいこいの水辺づくり ・ 河童のクウのような、キャラクター資源も ・ 湧水コンパニオン(ガイド)などで、まちの中を見る・観るしかけ ⇒ 飲食・店にお客を呼び、経済効果を出し、地元で働けるようにする(地元雇用の創出) ・ 3つの川とみどりのコラボレーションまちづくり。川辺ごとに世界の花を植えるなど、外から人が呼べるようなインパクトのある取り組みで観光振興を(例)巾着田、清瀬のかたくり) ・ 野草園の準絶滅危惧種を増やす、春・秋の七草を増やすなど、日本の花でアピールすることも考えられる ・ 四季折々の資源・生き物 ・ 資源の保全とのバランスに留意しつつ、市民や市外にPRして、人を呼ぶことが必要 ・ 湧水を歩く人も多い。資源があることがわかるようなマップ、立て札を
<p>既存地域資源の活用にあたって</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間の施設だから、都の施設だからといわず、活用すべきものは活用する姿勢で ・ 資源・施設マップをつくるなら、市民も参加して、より効果的なものを ・ 自転車で資源を回るルートも案内するとよい。レンタサイクルも ・ 資源を回る循環バスがあるとよい ・ いいところはあるけど、行きにくい ⇒ マイクロバスを回しては？
<p>資源活用の取り組み方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ やりたいことに聞き役をもうけ、人を集めて、既存設備を有効活用して、人の交流を盛り上げる。 ・ 市民がやることに市が参加する形も ・ 単発で終わるのでは、効果が続かない ・ 継続的に、メディアを活用しながら、東久留米市をPRする「PR担当」を市におき、盛り上げを図るべき ・ 市民アイデアが西武鉄道のウォーキングに発展。売れる資源をもって西武鉄道と協力を ・ 関係所管や各種団体(JA、商工…)がばらばらで、やることの求心力に乏しい旗振りや窓口機能を持つ担当を、市におくとよいのでは？ ・ 市役所内部の横のつながりが重要

■水とみどりを守る方向性・姿勢

<p>水とみどりを守る方向性・姿勢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水とみどりを市議会・市長の政策のトップに掲げるべき ・市の保証する緑地確保に、市の予算を割り当てるといった姿勢も ・「あるみどりをそのまま残そうとするのか?」「人がこれから創っていかうとするのか?」⇒両方「自然回復のコストをどう負担するのか?」 ・「水とみどりを守る立場」に立って、法的制約、税制などに取り組むべき ・守ると決めたら、徹底的にまもる ・現存するみどりをいかして、「公園都市(パークタウン)」をつくる
<p>市民参加の誘導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水とみどりのまちづくりを市民が知るために、取り組み事例を市民に紹介すべき 例: 里山パーク(横浜)、浜の保全(和歌山)、エコ住宅(ストックホルム)など ・市民の経験、スキルを活かす ⇒市民がプレイヤー ・市民ボランティアを有効に活用する。高齢者の生きがいにもなる ・ボランティアへの参加呼びかけは、市が主導すべき。でないと、集めにくい ・実際はボランティアの担い手は少ないのでは? 掛け持ちが多いような気がする ・ボランティアを振興するなら、目に見える成果の還元が必要ではないか? 相続税や収益性からみて、農家を「市民で支援する」だけじゃ足りない ・経済的に成り立つ農業とするためのケアまで行うなど、農家の生き残る道まで考えないと、口先の支援や市民の「手」だけでは、農地は残せない ⇒JAのノウハウ活用や市の支援が必要 (※再掲)
<p>法制度活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画法の改正を機に、都市農地の保全を掲げてもらいたい 「保全する農地」を明確にして、「残す都市農地」として位置づける ↑ 資金面の制約や都市農家の意向も考えないと
<p>重点化と法的指定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・守るべき「水とみどり」「資源」をはっきりさせ、景観法に基づく重要施設のアミをかけて、重点的に守るべき ・(すばらしい木がなくなった経験からみて) 「守るべき」ものは、市民みんなで話して、ここが大事と合意できるものを選出(困難だが) 選出したものについては、個人よりも公共性を優先するといった「市のスタンス」を示すべき ・南沢、竹林公園、自由学園、柳窪などを重点地区とし徹底的に残す ・その上で、 六仙公園も含めて、落合川・黒目川の川辺を活用し、自転車・歩行者ネットワークを形成する ・道路脇などのように景観効果の高いみどりを残すなど、みどりの残し方にも工夫が必要 ・屋外広告物の規制は重要 ・住民運動よりも「法律」「条例」。 ・住民の意見を取り入れた条例の制定や税制への具体的な対応などが必要 ・※住民意見の取り入れには、常設の「まちづくり懇談会」が重要だが、どうなったのか? (現行都市マスにあるか) ・「まちサポ」は、何をどうサポートすべきか?

■都市マスの見直しにあたって

	<ul style="list-style-type: none"> ・「緑の基本計画」の点検、進行管理を行い、都市マスとの整合を図ってほしい ・川や里山など、地形的な特徴を踏まえた計画づくりをしてほしい ・土地の使い方は、住んでいる人の参加を求め、地権者の意見を聞いた上での、納得のできるものでなければいけない。そのための合意のしくみが必要 ・「都市計画」は市民にとって身近じゃない。知らない。 ⇒ 開かれた行政づくりが重要: 市民の意見を聴くしくみ+市民が話しやすい環境づくりを ・条例で、管理者横断的に道路の使い方まで規定できるか？ 交通手段別道路役割分担: これは自動車、これは自転車、徒歩と規定できるか？ ・地権者の意見を聴くべき <p>私有財産にどう手をつけるのか・</p>
--	---

テーマ② 居住の安定を確保し、地域・団地の特性に応じた、大規模団地の再生

■団地の将来の姿 ⇒ ハードの整備と、住民の協力が一体となって、みんなが住める団地にしたい

間取りや世帯の多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・間取りが狭く家族で住めない。だから高齢者だけが残った ・若い人やファミリーも住める多様な間取りを ・コレクティブハウスのような発想で、間取りや世帯を多様化させていく ・2戸の住戸を1戸にまとめて間取りを大きくする ・若者が定住してくれるためのアイデアや工夫が必要 ・多世帯が共同で使えるスペースを備えた住戸 ・なるべく現状のまま、多世代が住めるように ・親子2世代が暮らせる住戸 ・戻り入居を前提に住戸を設計すると、間取りや世帯の多様性を失う
施設・設備の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機を置く場所に苦心している。エレベーター未設置 ・使いやすい間取りやバリアフリー化は必須 ・家具が備え付けてあると、住み替えが進むのではないか ・住民が共同利用できる施設などを設ければ、交流が進む ・豪勢でなくても、ふつうの生活が過ごせる間取りや設備を ・昔建てられた住棟は、両面採光や日当たり、風通しもよく、良い面もある ・狭くて暗い階段は子どもの安全上、不安 ・見通しが悪く死角になる部分を改善して、子どもが安全に遊べるように ・滝山団地をはじめ、敷地内にある豊富な緑は積極的に保全 ・建て替えにあわせて団地内道路の電柱が地中化されれば、景観はもっとよくなる ・団地内は立ち入り禁止でなく、団地内外を行き来できるとよい ・団地を開放しすぎても防犯上の不安が残る。安全性の確保は必要

高齢者も生活しやすい団地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が出かけやすい設計や仕組みが必要。 ・ 高齢者は高層階から降りて来づらい。周囲の呼びかけが必要。 ・ 高齢者を孤立・孤独死を発生させない体制づくり。見回りや通報体制など ・ 東久留米団地では、高層階の住戸に表札がない。高齢者の一人暮らしを知られたくないからセキュリティ上は不安 ・ 階段の昇降が可能な電動車いすを活用できる仕組みはできないか ・ 高齢者の戻り入居をきちんと対応しないと入居者がいなくなってしまう。スラム化への不安
住民の協力・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民間の交流や買い物などの利便性を高める設計が必要 ・ 食住や子育てなどが住民の協力により互助的に支えられると良い ・ 建て替えにより従前のコミュニティが崩壊。この再生には団地ごとの特性に応じて(坂の上にある団地は高齢化が深刻)工夫が必要 ・ 住民の共同作業を通じてコミュニティを再生する
家賃の優遇策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所得に応じた家賃優遇を ・ 家賃は地域の相場にあわせた設定に ・ 民間マンションよりも安い家賃設定にして、団地の衰退を防ぐ ・ 空き住戸を行政が借り上げ、安い家賃で市民に貸せないか。空き住戸の解消にもなる ・ 高齢者や低所得者の住み替えに対応した市営住宅、都営住宅の建設
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物を高く建てると、周囲の低層の街並みとの不釣り合いが生じることが疑問 ・ 懇談会での市民意見を、建て替えの際、URなどに反映させることは可能か ・ 周辺住民に対する排他的なムードがなくなるとよい ・ 省エネの観点からは、何もかも建て替えではエネルギーの無駄 ・ 団地の再生に対するURと市の考え方は整合がとれているのか ・ 団地は市域の縁辺に多い。周辺自治体との関係が大切 ・ 地域のまちづくりの推進と、団地の更新が整合することが必要
■団地に必要な役割・施設は ⇒ ハードも重要だが、住民で協力するなどソフト上の工夫も必要	
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援施設 ・ 子育て環境の充実に向けた、民間を誘導させる法や制度が必要 ・ 子育て支援施設と高齢者施設が同じ場所があれば多世代交流につながる
介護 福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ステーション、高齢者ケア施設 ・ 障がい者支援施設 ・ 公共住宅の戸数の10%は福祉用住宅に充当

<p>交流・コミュニティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が集える場所 ・ 高齢者のための相談コーナー ・ 多世代が交流できるスペース ・ スタジオのような、発表でなく練習として使える場 ・ 心の充実に向けた、芸術など文化と接する場 ・ 来客が1泊できるゲストハウス ・ 足湯ができるような、みんなが集まってこられる空間 ・ 農園など、緑を活かした世代間交流を考えられないか ・ 引きこもり住民が出て行きたくなるような場・工夫 ・ コミュニティや賑わいは地域が守っていく ・ コミュニティの施設は団地内外の住民が使えることが重要 ・ 和風な和みの空間(茶室や日本庭園など) ・ 棟やグループなど、小さいコミュニティのつながりが必要 ・ 地域資源を生かした教育や文化的施設 ・ スポーツや遊び場にみんなが使える広場、ボール遊びができる広場
<p>買い物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業施設が進出・存続しやすい工夫(インセンティブ)を ・ 商店街の活性化には駐車場が必要。行政は支援を ・ ショッピングモールや大きな商店
<p>緑の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設を作るよりも緑化(雑木林)を優先 ・ 団地内外のみんなが使える公園 ・ 河川に面した空間など、オープンスペースの保存 ・ オープンスペースは敷地の際に確保して地域が利用しやすく ・ 豊かな緑を活かしたビオトープ ・ 緑をめぐる散歩コース ・ 水とみどりを大切にす都市マスの理念を実現する上で、団地がお手本・先導してほしい ・ 緑の量よりも、身近に触れ合えたり、生物の住みかになるような質の向上が大切。
<p>公的施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役所の出張所や郵便局などの公的な施設 ・ 医療機関(市内には病院が少ない) ・ 中学校の校庭が狭いので団地内に移転できないか ・ 学校や教育関係施設
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カーシェアリングや運転代行 ・ 運営は民間に委託して利便性を高める ・ 来客用駐車場の増設 ・ 団地内で生活の殆どがまかなえるとよい ・ ベット可能の棟があってもよいのでは

■滝山団地のこれから ⇒ 今の環境のまま住み続けられて、周囲の良好な都市機能を活かした再生	
豊富な緑環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園があり、緑も多く良好な環境 ・ 若い世代の入居もあり、好循環している ・ 遊歩道がネットワークされている環境は絶対残したい ・ 分譲ではかつて、芝生をやめて駐車場にしたい話もあったが、芝生を残した ・ 昭和40年代に整備した先進的な実績を市はもっとPRすべき ・ 遊歩道の管理が行き届いていないので、行政または自治会による緑や遊歩道の手入れが必要。
高齢者も住み続けられる団地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習志野の例を見習って、サポート会議を立ち上げ、住民間の助け合いや結びつきを強める。 ・ 上層階に住んでいる高齢者が1階に移り住める仕組みがあると良い ・ 賃貸では、単身高齢者の増加と、今のまま住み続けられる意向が根強い(アンケートによる)。商店の充実、家賃補助、来客用駐車場の増加などが要望にあがっている
若い世代へのPR	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT環境も整備され、若い世代にも対応。若い人へのPRがより必要
既存ストックの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校、病院、商店街など、生活に必要なストックも充実。これらの活性化が重要 ・ その日の買い物が気軽にすませられる品揃えを求む
エレベーターの設置 配管の修繕など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 賃貸へのエレベータの設置計画は踊り場に設置されるため、抜本的なバリアフリーにならない。さらなる改善策が必要 ・ 賃貸へのエレベーター設置はすべての住棟に ・ 分譲に対しても、エレベーターに対する補助を ・ 3回目の大規模修繕を行い、躯体は大丈夫だが、配管など中身の更新が必要。分譲に対しても助成をお願いしたい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 階段を挟んだ10戸でのコミュニティは強固。今後も維持したい。 ・ 再生にあたっては、住民や行政の協力が必要 ・ 分譲棟は私有地。大規模団地を一括りに扱わず、慎重な検討を ・ 長い年月の議論の結果、建て替えによる再生は望んでいない

テーマ③ 道路が整い、バスが使いやすく、歩行者・自転車が安心して通行できるまちづくり

■道路整備 ⇒ 緑を残した道路整備 鉄道による分断の解消 狭隘道路の解消など 課題多い

道路整備の必要性や工夫

- ・ 道路整備よりも、自転車での安全な通行や歩きやすい歩道整備を優先すべき。
- ・ 都市計画道路の整備率はまだ5割だが、それでも周辺市より着実に整備している。
- ・ 南北方向の幹線道路が少なく、狭い道に交通が集中し混雑している。
- ・ 幹線道路整備はある程度必要。
- ・ 隣接市と連携した幹線道路の整備。
- ・ 昭和37年に決定した基盤の目の道路整備をする必要があるのか？
- ・ 生活道路でも代替できる部分はあるし、人口減少で需要も減るのでは？
- ・ 現行都市計画道路網の見直し。決定されてから50年経っても未整備のままでは無意味。
- ・ 幹線道路、生活道路ともに整備の推進を望む
- ・ 幹線道路が不足している状況は、生活上は慣れた
- ・ 道路整備は、水とみどりを大切にする都市マスの理念と矛盾する
- ・ 緑を残しながら道路を整備する工夫が必要。
- ・ 道路の線形はまっすぐでなくてもよい。緑を残すことを優先すべき
- ・ 南沢湧水群を抜く道路整備は不要。自動車は迂回すればよい
- ・ 南沢湧水郡や竹林公園に影響する都市計画道路は、迂回など柔軟に見直すべき
全国的に、道路計画見直しの動きがあるので
- ・ 南沢湧水に訪れる自動車で生活道路が混雑。解消を
- ・ 幹線道路整備は通過交通を増やすだけ。市を取り巻く状況は変化。今以上の整備は不要
- ・ 六仙公園を広域避難場所に指定するとともに、アクセス道路の整備を
- ・ 交通事故を増やさない観点から、今以上の幹線道路整備は不要(事故は大きな交差点で発生)
- ・ 学校をかすめる道路計画は見直しを
- ・ 新所沢街道の整備により、生活圏域が分断。地域コミュニティの維持に配慮した道路整備の工夫を
- ・ 新小金井街道は車道を4車線から2車線に変更したため、歩道が広くなり歩きやすい
- ・ 道路整備は住民の協力が必要なのに、事業が認可になると直ちに工事が始まる。
住民への説明が必要

移動しにくいところがある

- ・ 昭和病院(西部地域センター出席者)
- ・ 南町からひばりが丘駅(同上)
- ・ 市外の大きな買い物ゾーン(同上)
- ・ 文化財などのスポット(同上)
- ・ さいわい福祉センター(東部地域センター出席者)
- ・ 黒目川沿いの崖が地域の分断要素となっている(同上)
- ・ 新座方面。都市計画道路3.4.20の早期整備が必要(同上)
- ・ 南沢から東久留米駅(市役所出席者)
- ・ 滝山から市役所方面(西部地域センター出席者)
- ・ 急な坂での移動(南部地域センター出席者、市役所出席者)

鉄道による分断	<ul style="list-style-type: none"> ・踏切の解消は市民の悲願 ・清瀬のアンダーパス化に伴い、抜け道として通行する自動車が増えた(幸町住民)
■道路の安全性や快適性 ⇒ 狭い道路での安全性・快適性の確保が重要	
バリアフリーの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道と車道の高さをフラットにした整備がよい。埼玉ではよく見かける ・街路樹の根が舗装を押し上げ、歩道が波打っているため歩きにくい ・街灯を増やして安全に通行できる環境を ・街灯は車道側だけでなく歩道側にも設置を ・小金井街道の歩道には、階段状になっている箇所もある ・滝山では道路は整備されているが歩道は狭い ・商店の入口に置かれているステップが、通行をさらに邪魔にしている ・グレーチングは足を取られる ・車いすで移動しやすい歩道を ・ハードより、人の手によるバリアフリーが大切。介助など
自転車の走りやすい道路	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者にとって、自転車も怖い ・道路が広いと自動車のスピードが上がるので、自転車はかえって走行しづらい。特に西部 ・道が狭いと、自動車も少ないし、自動車のスピードも落ちるから、自転車も走りやすい ・借地で運営されている駐輪場を永続的に使用できるように ・駅前駐輪場の台数確保(減少傾向) ・三輪車の利用が増えている。安全面での配慮を(区画線を引くなど) ・地域ごとに自転車の共同利用を推進するとともに、マナーの改善を呼びかける ・東久留米北口の朝の自転車混雑はすさまじい。社会実験を通じて改善できないか ・滝山中央通りでは歩行者と自転車が錯綜。自転車通行帯を実験で設けて改善 ・歩道、車道、自転車道が分離した道路づくりを希望
道路が狭いために	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急車両の通行には大きな問題 ・自動車のすれ違いが困難 ・自転車での通行が不安 ・小金井街道(1小前)や旧所沢街道での安全性が損なわれている ・ごみ収集車が止まっていると追い抜けない ・ガードレールのない道が多く、歩行者と自動車が錯綜する ・例えばダイワ精工付近の道路は狭く、歩道も形式上あるだけ。危険 ・無電柱化や一方通行化による、円滑な通行や安全性の改善 ・スクールゾーンに自動車が進入(自動車の代替路がない) ・電柱を、民地の協力により敷地内に移設して空間を確保 ・道が狭いのはやむを得ない。里山に市街地があるのだから

自動車交通の流入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅員の狭い道路に流入する自動車交通(通過交通)は排除 ・ 滝山中央通りが全通すると、通過交通が増える懸念 ・ 新小金井街道は車線は減ったが、通行量が増え、渋滞もひどくなっている ・ 大規模ショッピングセンター周辺における自動車交通が心配。安全性の確保や渋滞の懸念
遊歩道、サイクリング道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ走行のできるサイクリングロードの整備。小金井方面の自転車道と接続 ・ 黒目川の遊歩道でも、歩行者と自転車の錯綜が危険 遊歩道の一方通行化や、両岸で自転車と歩行者を分離すれば解決できる ・ 黒目川遊歩道への照明設置 ・ かつて提言した「緑のネットワーク」が活かされていない。優先的に実現を ・ 「道の駅」に倣って、「小道の駅」を設けて市内を回遊しやすくするとよい
街路樹や植栽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道には「植え込み」でなく、「街路樹」を ・ 街路樹を刈り込みしすぎず、木陰を適度に確保してもらいたい ・ 歩道が狭い部分では、植え込みをやめて歩道を広く
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールづくりをきめ細かく行い安全な交通環境を確保 ・ 自動車利用は業務や移動が困難な人の利用に限定すべき ・ PTAでヒヤリ道路マップを作成した！
■バス交通 ⇒ 市内の東西交通手段としてバス交通の充実を望む	
バスによる東西連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の東部と西部を連絡するバスルートを ・ 東久留米駅東西のバス乗り継ぎが不便 ・ せめて乗り継ぎ割引があればバスでの市内移動がしやすくなるのでは
コミュニティバス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔はバス路線があった。坂の上に住んでいると移動が大変 ・ バス(コミュニティバス)の早期導入 ・ 道路の拡幅や都市計画道路の整備を必要とせずバスの導入を実現するには、狭い道でも通行できるコミュニティバスが適している ・ コミュニティバスは、市内循環だけでなく周辺市と連携してルートを広域に ・ 市の中央部から南部への移動手段に乏しいので、コミュニティバスが必要 ・ 環境に配慮した車種の導入を求む。エタノール車など
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツセンターの送迎バスを路線バスとしても利用できないか ・ 移動の連続性や円滑性が確保できるように、パーク&バスライドのような仕組みが導入できないか ・ 最寄りのバス停までが遠い

テーマ⑤ 誰もが安心して暮らせるまちづくり

■公共的施設の配置や数 ⇒ 不足気味。コミュニティが形成されやすい場が欲しい

後追的な施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古くから居住していた地域に少ない。その理由は、急激な人口増で、施設計画が開発のスピードに間に合わず、後手に回った結果ではないか
----------	---

<p>今後の施設づくりについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財政危機にあることについて、市民意識が希薄である。これを共通の認識にした上で、施設をどうするかを検討していくべきである ・ 民営化すると利用できる人とそうでない人が出て格差が生じる ・ 六仙公園にコミュニティレストランなども備えた集会所をつくり、コミュニティの拠点とする。公園の管理棟にコミュニティ施設を。このため都立公園であるが市の積極的な関与を望む ・ 六仙公園を福祉特区にし、コミュニティ拠点を整備する。保育園、高齢者施設、障害者施設、文化交流施設、小中高の統合した学校、市民農園、陶芸などができる工房などをつくる
<p>3つの地域センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの地域センターで年間2億4千万円の維持費がかかる。一部の利用に偏っているようなので、高齢者といえども受益者負担の原則を通すべきで、公平に利用しやすくすべきだ
<p>3つの地域包括支援センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センターは偏っている。西部やひばりからは遠く不便である。数が少ない
<p>施設の有効利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校跡地や教室の積極的な有効利用を。そのためには教育委員会との連携が必要 ・ 閉校して売却しないこと。拠点として活用すべき ・ 地域全体で施設利用を考えるべき。行政は総括的に対応 ・ 第一勧銀グランド跡地に、全国レベルで利用できるスポーツ施設を。また一流の芸術家から市民活動まで多目的に利用できる文化施設を ・ 前沢においては、幼稚園跡地や児童館の利用 ・ イオンの地域貢献を生かし文化的な施設づくりをのぞむ
<p>不足しているもの ほしいもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば市役所1階はプラザになっており、誰が行っても集える場所となっている。学生の勉強場所ともなっている。このような場所があると良い。話し合える場所が欲しい ・ 文化的精神的な面が遅れている。名画座の見られる映画館が欲しい シネコンがほしい ・ 生涯学習センターが欲しい ・ 大学があると良い。大学キャンパスがあると良い ・ 公園が少ない。ポケットパークが欲しい。緑地には人は入りにくい ・ 街なかに高齢者が座れるベンチ。ネーム入りで市民が管理する ・ シルバーピアに対する、市の安心ネット機能が十分でない ・ 特別養護老人ホームへの待機は380人である。自宅での老老介護は殺人事件まで発展する可能性がある。介護系施設の充実を求める
<p>不便な柳窪</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柳窪は市のはずれにあり忘れ去られている。近くにまとまった商店街がなく、バスは不便

■コンパクトな生活圏の形成 ⇒ 小学校または中学校単位で圏域を設定しミニ拠点の配置を

	<ul style="list-style-type: none"> ・市の中心である、中央町から東久留米駅周辺に大きな核をおくとともに、市内を小学校単位で分けて、それを1つの圏域として小さな拠点を配置していくという考え方にもとづき計画するのがよい ・生活圏の単位は小学校よりも、中学校の方が良い ・都市計画のようなゾーニングではなく、小さな拠点からなる圏域づくりが望ましい ・拠点には商店街や出張所的なものがあるとよい。施設は小さくてもよい ・拠点はスーパー併設のセンターなどがあってもよいのではないか ・圏域はある程度具体的に距離を設定すべきであり、それは徒歩の場合と自転車の場合がある。その中心に一定の施設が集積していることが重要である ・身近で衣食住を済ませたい ・市内に独居老人は約6000人いる。孤立化を防ぐ必要がある ・東西移動が不便である ・給食をとる高齢者が増えたが、街なかに出て買い物してもらうことが重要だ
--	---

■コミュニティ対策 ⇒ 近所づきあいが重要。このためセンター的機能や相談機能、仕掛けの充実を

<p>高齢者と子供が住み続けられるまちであることが重要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口予測で何れ減少するとなっているが、魅力あるまちであれば人口は増えるはず。このため、高齢者や幼児、学齢児を含む人たちが暮らしやすいまちづくりが重要 ・独居老人の把握が重要だが、民生委員は高齢化している。拡充が必要。しかし民生委員はなり手がいない。高齢者の見守り活動では、個人情報保護法の壁が立ちふさがる ・高齢者の病気に対する安心対策としては、地域診療の適切な配置や、日常の相談所の設置、緊急時は夜間・休日対応の医療機関とのタイアップがあると良い ・独居老人の安心対策としては、亡くなったあとのライフサイクルでの相談所があるとよい。特別養護老人ホームの不足や、お墓の問題など深刻である ・高齢者は、食事サービスよりも街なかで買う行為が重要である。個別店舗と独居老人とのつながりを重視する施策が地域包括支援センターでアウトリーチとして進められている ・高齢者はどこに相談していいかわからないでいる ・近所づきあいが少ない地域がある ・不登校児についてはコミュニティ壁が厚い。地域からの呼びかけが重要だ ・東久留米市には外国人が多い。”多文化共生まちづくり”をかかげ、外国人のコミュニティ対策を ・地域と若い世代との積極的な交流が望まれる。そのためには橋渡しが必要であり、その役割を青少年健全育成協議会に期待したい。しかしパワーが低下しているため活性化が必要だ ・高校生の居場所がない。ダンスやバンドなどで練習する場所や発表する場所が欲しい。高齢者と同時に発表できるような場所が望ましい ・自治会加入率が下がっている。加入の促進を望む ・自主防災組織のない空白の町会が多い。組織化の誘導で、自治会の維持・活性化に繋げるのがよい ・犬を飼っている人が多い。マナーの悪さが目立つ。六仙公園にドッグランを整備して欲しい
---------------------------------	---

<p>イベントなどで地域の一体性を醸成することが重要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会参加にあたって子供と話をしてきた。子供が言うには「必要なのは心の充足」 ・地域でみんなで何かをすることが重要。例えば祭り ・小学校や幼稚園で、共通の踊りができるなど、みんなで共有するモノが必要だ ・かつて中学校単位で、青年会が中心となって祭りを行っていたが、今は殆どない。下里の氷川神社を中心に、かつての青年会が中心となって祭りを復活させる動きがある。大事にしたい ・市民祭りのようなイベントをもっと多く ・かつて東久留米音頭があった。少し若者向きにアレンジして、何とか復活させたい ・東久留米音頭を市の踊りにし、また市のマスコットをつくるなど、地域よりも市レベルで市民の気を一にするモノがあるとよい
<p>センター的機能のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自助だけでは限界である。公助や共助の概念のものと施策が必要である ・地域の問題は、地域で解決する仕組みが重要だ。連邦制のように。地域間である程度の競争が発生しても良いのではないかと。地域から変えていかないとけない ・市内7地域において、地域単位のボトムアップが必要だ。住民自らが住民協議会をつくり、常設して地域のまちづくりに取り組むのが良い ・地域住民の意識を活性化するため、身近なまちづくりから取り組むのがよい ・住民会議を常時行えるよう、集会所の設置を望む ・互いに顔の見えるふれあいの場が必要。今のまちサポでは場がないため顔が見えない ・よろず相談的なことができるコミュニティセンターであるべき ・コミュニティレストランなどができる住民主導の場であるのがよい。地産地消による地域プロデュースの視点が望ましい(一定の収益がないと続かない。Win Winがよい) ・センター的機能の整備にあたっては、行政や仕組みや仕掛けづくりを行い、あとは市民が運営する形がよい ・会議をする場合は、箱物といった感じではなく、机と椅子がいくつかあり電話があるような”場”で十分
<p>まちサポの活発化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内にNPOなどが300～400位あるが、地区センターでは把握できない。まちサポ(市民活動支援センター)を活発にして欲しい。10年位前にできたがハード部分はダメだった ・まちサポは、今の仕組みの状態で拡充しても、NPOはリードできない。市のきちんとした位置付けが必要である
<p>コミュニティづくりの進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を中心とした地域活性化を進めるコミュニティスクール制度がある。小中一貫校にして、子供たちを9年間、地域が一体となって支え育てる制度である。小平市や三鷹市で例がある ・本町1丁目の21世帯で、買い物に行けない高齢者に対して、街なか顔を出してもらおう活動をしている。出すのが困難なら顔を見に行く活動もしている ・720世帯が一緒になって、エリアを分けて草取りボランティアを続けている。高齢化し中々除草ができない面があるが、コミュニケーションの機会として重視している。顔を出して顔を見にきて ・多世代が入りやすいテーマを選ぶ。例えば防災など ・楽しい仕組みが重要 ・一方で、プライバシーへの配慮 ・若者がコミュニティに入れるきっかけがない。楽しい場であったり、コミュニティツールとしてインターネットなどの活用の仕組みがあるとよい。若者が入ると世代間の隙間を埋めることができる

<p>団地の場合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉じられた空間をいかし緊要度の高い施設の揃う場にしたらどうか。例えば一時診療、介護施設、一時保育など ・ 団地には若い人の誘導が望まれるが、収入減でUR住宅には入れない状態にある。対応が必要 ・ 高齢者を低層階に移すなど住み替えルールをはっきりする。また見守り体制を充実するなどコミュニティの再生を進める ・ 団地の見守りが単発的に終わってしまうことがある。市のサポートができないか ・ 遊歩道を利用して人が集まるような場にできないか。 ・ 団地と周辺自治会(町会)の交流が課題だ。そのためには交流の場が必要。例えば夜、学校の教室を開放してくれるとよい ・ 滝山団地では空き店舗があり、その有効活用が課題。高齢者のための交流施設やお休みどころなど ・ 滝山団地では商店街の駐車場が有料であるため、大型店などとの競争性に欠ける ・ 行政は滝山団地の商店街への支援をもっと積極的にすべきだ
<p>■商店街の活性化 ⇒ 大型店にはかなわない。しかし徒歩圏に商店街がないと困る</p>	
<p>大型店にはかなわない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 24時間営業しているスーパーがあり、また、周辺にスーパー4店舗がひしめくようなところでは、商店街がかなう訳がない ・ イオンが最大の不安である。これが来ると商店街は壊滅状態に陥る。行政はどう対応する
<p>商店街への希望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の商店街には生鮮三品だけでもあって欲しい。今後高齢化するともっと困る ・ 子供が、文房具など気軽に買い物に行ける商店が少なくなった。高齢者も同様 ・ 生協で宅配してもらっている。商店街でも対応してはどうか ・ コンビニが少ない。試算すると市内に後5店舗あってよいはず ・ 個人商店も買いに行きたくなくなるような努力はすべきである。もっと地域に根ざすよう地域貢献が必要だ
<p>商店街のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災や防犯、見守り、福祉、交流などの拠点となるべきである ・ 地域とのコミュニケーションがある。地域の資源と位置づけるのが良い ・ 地域内での縦割りをさげ、農業や企業、町会などとの横の連携が重要である
<p>補助制度の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街の活性化にあたっては、市は国の制度を利用するのが下手である ・ 中小企業庁に商店街活性化のメニューがあるため、これを利用するのがよい

■交通のあり方 ⇒ 多様な手段の用意を考えるべき

<p>想定される交通手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通としてミニバス。ただし最低幅員5.5m必要。4m未満道路の多い地区にとっては拡幅は厳しい ・ コミュニティバスの導入は緊急課題である。その導入で自動車増は防げるのではないか ・ コミュニティバスを導入しても、便利な自動車が使えのままなら、利用する人は限られる ・ コミュニティバスを大幅に整備し、100円で運行する ・ 歩行者・自転車専用道路を整備する。健康やレクリエーションにもよい ・ ミニバスがダメなら福祉タクシーがある ・ 企業と連携し、定期券の家族共有ができる仕組みがあると良い ・ 自転車がよい。課題は走行空間の確保。一方で駐輪場の確保も ・ 徒歩圏に色々あるのが良いが、浅間町は地形の関係で歩くのは困難 ・ 自転車の共同利用 <p>ひばりヶ丘団地から東久留米駅や中央に行くのに、バスがない。町会としてコミュニティバスを要望している。メインの通りとなる笠松坂は歩道が狭い所があり自転車や歩行者は安心して通れない</p>
<p>道路整備の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車を通さない仕組みを ・ バスが通るべき道路を優先して整備すべき ・ 歩行者や自転車利用に適した道路整備とすべき ・ 笠松坂の拡幅、危険箇所の改善を ・ 電柱の撤去を ・ 歩道にベンチを

■駅前にどんな役割を求めるか ⇒ 文化的な機能や若者向け機能。東口の整備がポイント

<p>駅前に欲しいもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映画館、美術館、コンサートのできる文化ホール。カルチャーやアート、ホテル、充実した図書館を ・ 若い人を集めることが重要なため保育所や託児所。Emioは良い。Emioで少しは賑わいができた ・ 下里の農産物を直接販売 ・ 借地の自転車置き場がなくなり、自転車置き場が不足している。コンパクトなまちづくりにするためにも台数確保が必要ではないか ・ 観光案内人(コンシェルジェ)が欲しい ・ 駅前広場は、緑の木陰や、高齢者が休憩できるベンチがあるとよい
<p>空き店舗活用の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政などの出先機関を ・ チャレンジショップの展開を ・ 交流施設を
<p>駅周辺の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北口の閉鎖で商店街の活気がダウンした ・ 東口(北口)の整備がポイントで可能性大。促進のためには商店会の意識改革が課題 ・ 祭りによる活性化が重要と思うが、主催者である駅前商店街と門前商店街の一体性が課題
<p>西部や中央部の人たちの利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西部や中央は、西武池袋線に流れている ・ 市外ではあるが花小金井駅に出先の行政版ATM(無人証明発行機・情報センター等)があると便利で良い

■まちの売り込み ⇒ お金がない中で、何を売り込むかの工夫が必要。観光の視点も	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金がない中で、どのようなまちづくりをするか工夫することが重要だ ・ 東久留米市においては、水や農地からとれる野菜が売りになるため、これらに付加価値をつけて、市を広く売り込むのがよい ・ 観光に力を入れる必要がある ・ 地場産品を一箇所に集めて、展示販売する
■ネットワークが重要 ⇒ 緑と徒歩と自転車のネットワークを形成	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の整備が重要であるが、結ばれていなければ効果は低い。緑と徒歩と自転車のネットワークの形成が重要だ
■防災その他の視点が重要 ⇒ テーマが安心であるなら、防災・防犯が上位にくるべき	
防災・防犯の視点が無い	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマが安心であるなら、防災・防犯が上位にくるべきだ ・ 暮らしやすさと安心・安全は別項目ではないか ・ なぜ、安心から、防災をはずしたのか
ブロック塀の生け垣化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東久留米市耐震改修促進計画の策定過程において、ブロック塀の倒壊による危険性が高いことが分かった。生け垣にするなど対策が必要だ
マニュアル作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対策ではできるだけお金をかけず備えることが重要だ。そのためにはマニュアル作成や地域での普段からの話し合いが必要だ
防災マップの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災マップ作成にあたっては、自治会などがもっているデータが重要だ。みんなでマップを作成するなど過程も重要だ
ほか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前沢3丁目ですべト問題が発生している。現行都市マスでは住工共存市街地のまちづくりの方向性が記載されてあるが、これに該当する前沢3丁目は解決されなかった。今後どうするか ・ イオン開発により1700台の駐車場ができる。また荷さばきのための自動車1日に約200～250台発生する。環境汚染が心配である ・ 柳泉園組合で行われているゴミ焼却で、化学物質や重金属が排出され、乳幼児う胎児に対する害は大きい。ゴミ焼却を中止すべきだ。ゴミを燃やさない処理で、その処理費を地元で落とすシステムをつくるべきだ。 ・ 生ごみは水分80%、燃やすためにプラスチックを投入しており、環境破壊に繋がる。新システムを！ ・ 南町でぜんそく児が増えている。どういう状況か情報を示して欲しい ・ ぜんそくは、自動車交通などによる砂塵によりおこる。妊婦を通して胎児の脳に侵入する ・ 川という資源がある。災害時に水源がある東久留米市は非常に強みがある ・ PTAで街なかのバリアフリー点検などを行い、行政など関係所管に提言しているが反応が今いち ・ 街なかにもっとAEDの設置を

テーマ⑧ CO₂の発生の少ない低炭素型まちづくり

■公共主導での対応 ⇒ 行政が率先して環境対策を

<p>公共の建物でのCO₂削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設は太陽発電装置の積極的な導入を ・ まず市庁舎が太陽光発電を ・ 公共建築物の夜間のライトアップは不要である。節電してもらいたい ・ 学校で生ゴミ処理機を導入し、子供たちが家庭の生ゴミを持ち込み処理し、その堆肥を農家に提供し、生育した野菜などを学校給食で頂くという仕組みが考えられる ・ 学校のグラウンドの芝生化を進めるべき 学校の教室へのクーラー設置の話があるが、これは温暖化を増長することになるため、その前に ・ やることがあるだろう。例えば、スプリンクラーの設置やグリーンカーテン、屋上にソーラー発電など ・ 補助金をしっかりもらって公共施設の緑化を進めるべき ・ 第一小学校を建て替えたとき、何故太陽光発電を設置しなかったのか。今後、建て替えのチャンスを見逃さないように ・ 市役所で実施したグリーンカーテンの企画は良かった。また市がゴーヤやヘチマを配り、緑化を誘導していることは良いと思う。まずはこうした小さいことから始めるのがよい
<p>乗りもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気自動車の普及 ・ 乗り合い自動車(カーシェアリング)を導入したらよい ・ 自転車がこれ以上増えると、道路が危険な場所となるのではないか。自転車のシェアリングやレンタサイクルがあるとよい。観光にもよい。商工会もレンタサイクルを検討している
<p>道路・交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車を利用しにくい道路にしていくべきである。ハンプ、時速20kmなど速度規制、一方通行、狭さくなど。モラルも重要だが、このような強制的な施策が必要だ ・ 自動車から自転車や徒歩に転換しやすい環境づくりが重要だ ・ 道路を整備したら適切に街路樹を植えるなどの対応をすべきである ・ 3輪自転車や小型自動車の普及が今後考えられるため、これに適した道路整備を考えるべき ・ 道路を整備したら、街路樹を植える。このため電線を地中化する ・ 高齢者が街なかにもっと出られるよう、ベンチを置く。ベンチは管理する市民のネーム入りで
<p>ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りでのゴミを減らすため、マイ箸、マイ容器持参にする活動を進めるのがよい ・ 六仙公園を整備する場合は、緑(樹木)に配慮すべき ・ 暗渠の川を開渠にして冷たい風をながす(市内には8本の川があったが内4本がいま暗渠) ・ 河川に沿って風力発電 ・ 街路灯のLED化が重要だ
<p>都市全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市がエコシティ宣言をし、東久留米市5万1千世帯にスマートメーターを無料で配布し、エネルギー効率を高める誘導をする ・ さらにスマートシティ(最新技術を駆使してエネルギー効率を高め、省資源化を徹底した環境配慮型の街づくり)をめざす ・ このため、アドバイザーなどエコ人材の育成と活用を推進 ・ CO₂の排出権を売れるようにすべき ・ まちをアスファルトやコンクリで覆わない。 ・ 緑化の義務付けを条例化する

■家庭部門での対応 ⇒ 省エネや車利用など過程での課題も都市計画に反映を	
個別施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木を植える。プランターでもよい。こうした緑化を義務づける ・ ブロック塀は生け垣にする ・ 井戸水の活用 ・ この40年間、水道水を屋根までくみ上げ太陽熱で暖め、風呂湯として使っている。シンプルで壊れない ・ 雨水浸透枳の普及 ・ ゴミBOXは景観阻害、また歩行障害となる。できるだけ場所をとらないよう、ゴミを削減する
誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3Rの推進 ・ PRが重要 ・ 省エネや車利用など過程での課題も都市計画に反映を ・ ゴミの削減を誘導する包括的な対策 ・ ゴミ分別の徹底が重要で、このため周知をしっかりと行うべきである
■企業部門での対応 ⇒ 大企業の緑化義務化	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型の施設をもつ企業は緑化の義務づけを
■団地での対応 ⇒ カーシェアリングや地域冷暖房の導入	
団地建て替えに合わせて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団地建て替えに合わせて、地域冷暖房を導入したらよい ・ 乗り合い自動車(カーシェアリング)を導入したらよい
■土地利用面での対応 ⇒ 年中緑のある農地に	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作放棄地の緑化。年中緑多い農地であって欲しい ・ 農地を減らさない。このため農業振興が重要で、指導員の充実が必要。また地産地消を推進

そのほかのご意見

■12日の午前(西部地域センター)

- ・人口が増えると緑は減っていくと当然のように思われるが、今後どのようにして緑を守り増やしていけというのか
- ・懇談会がまた開催されるのなら、参加者に何をやりたいかを発言する時間をとって欲しい
- ・懇談会で出た意見はパブコメ扱いとして欲しい
- ・滝山団地は、多摩地域のモデルとして、コミュニティを推進している。そのなかで、ITや地デジの話が出てきた
- ・現行都市マス策定以降の振り返りが重要で、そこからスタートすべき

■12日の午後(東部地域センター)

- ・高齢者を中心に3輪自転車の利用が増えている。車幅があるため、走行空間や曲がり角などでの道路側の配慮をお願いしたい

■18日の午前(南部地域センター)

- ・現行都市マスは平成20年に部分改訂されたが、南沢5丁目のそれ以前の土地利用は流通業務地となっている。なぜ部分改訂で土地利用が赤色に変わったのか、その資料がここにはない
- ・流通業務地は法律があるが、南沢5丁目はこの法に基づき検討されたのか。また、この法による流通業務市街地の用途規制じゃ極めて厳しいのに、南沢5丁目はなぜ簡単に変わったのか。流通業務地の定義を明らかにすべきだ。
- ・5項目について検討するということであるが、これから、良いまちづくりをして行こうという、ワクワクする気持ちがおきない。それは市民がつくるマスタープランの理念、その共有の理念が確認できないからだ
- ・現行都市マスタープランは「水と緑」をテーマとしているが、この部分も含めて見直すのか
- ・広域雨水幹線が小金井街道の下に埋め込まれ、黒目川や落合川につながっている。この整備が済むと周辺市の雨水がどっと流れ込むことになるが、大丈夫か？この雨水幹線の整備情報をきちんと開示してもらいたい。また、市は東京都に対して計画の中止を求めるべきである。
- ・全市レベルで議論するのか、地域レベルで議論するのか
- ・今日出た意見は具体的に反映するように
- ・提供して頂きたい情報がある。公開して欲しい。
- ・地域別構想の資料は、白黒コピーであるため、土地利用等の判別ができない。
- ・資料を見ると、シナリオがまとまっており、解決のための方法を聞かれているようだ。素人だと分からない所がたくさんある。地区計画など

■18日の午後(東久留米市役所本庁舎)

- ・これまでの都市づくりの整理はできているのか
- ・イオンにおける交通が大きな課題だ
- ・都市計画マスタープランは土地利用に関することが大きいので、土地に権利を有する人の意見を考慮して検討する必要がある
- ・本日の資料等は、数ヶ月や半年くらい前から市民に提示して欲しい
- ・市はまちづくりビジョンを出してから、このような会合を開いて欲しい
- ・観光が重要である。このため行政は観光課を、民間を中心に観光協会を設置するのがよい

■24日の夜間(東久留米市役所本庁舎)

- ・ 東久留米市には多くの中小の工場がある。その技術レベルを維持・向上するための施設が必要
- ・ 欲しい資料として第4次長期総合計画の内容 → 後ほど広報誌特集号が配布された
- ・ 欲しい資料として、これまでのまちづくり評価
- ・ 懇談会で話し合いたい5つのテーマ以外の3つはどうなるのか
- ・ 農業や興業の振興策を都市マスに入れるべき

■29日の夜間(西部地域センター)

- ・ 8の項目から5の項目になった理由は何か
- ・ 産業の振興が重要だ。滝山団地商店街の活性化はどこで議論する？ → ⑤で議論する
- 滝山団地のうち分譲住宅は、そこは私有地であり私有財産である。このことを理解した上で団地再生を議論して欲しい。分譲住宅の住民の多くは、今のままで良いという意見が多い。慎重に進めて欲しい。
- ・ 東久留米市のまちづくりを進める上で重要なことは2つある。1つはインフラ整備である。もう1つは「いつまでも住み続けたい気持ちになるまちづくり」を理念として掲げることである。
- ・ まちづくりはコラボレーションで進めることが効果的である。例えば、観光と高齢者にやさしいまちづくり
- ・ 市立第十小学校敷地に都市計画道路がかかっているが、その整備には反対である。道路でまち分断されることと、子供たちの交通に不安が高まるためである。戻ってきたいまちにして欲しい